

第15回県政ひざづめ談議結果概要

○ 開催日時：平成21年11月18日(火) 14:00～

○ 開催場所：中央市立田富ひばり児童館

〔司会〕

それでは大変長らくお待たせをいたしました。

知事対話、『ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

まず横内知事からあいさつをいたします。

〔知事〕

遅くなって申し訳ありませんでした。今日は皆様方お集まりをいただきましてありがとうございました。『ひざづめ談議』と言いまして、県の行政のいろんなことについて皆さん方とざっくばらんにお話をする機会を持っております。

今日は中央市でボランティアとして子育てをするお母さん方を支援をしておられる方々とか、また実際子育てを今一生懸命仲間と一緒にやりになっている皆様方にお集まりをいただいたということでありまして、子育てというのも県にとっても大変に重要な課題であります。山梨県は出産は非常に安全な県で、周産期死亡率というのがありますね、要は出産をする前後ですけれども、子どもさんが死産という形であったりとか、あるいは乳児で亡くなったりというものの死亡率が全国でも一番低い方ですから、出産は非常に安全なんですけれども、是非子育ての面でも「山梨は子育てがしやすい」と、そういう県になるように今努力をしているところです。そんなことで皆様方からいろんなお話を聞いて、県の行政に反映できればいいなというふうに思っております。中央市の皆さんは市長さんの方針もあって、大変にこうやって子育てのサークル活動が活発だというふうに聞いておりますので、今日はいいお話を聞かせていただけるんだらうと思って楽しみにしてやって参りました。今日はありがとうございました。

どうかよろしく願いいたします。

〔司会〕

それでは、本日出席をしております県と市の担当者を紹介させていただきます。

県の少子化対策を担当しております清水理事です。

〔清水 福祉保健部理事〕

清水でございます。よろしく願いいたします。

〔司会〕

県で子育て支援などを担当しております清水児童家庭課長です。

〔清水 児童家庭課長〕

清水です。よろしく願いします。

〔司会〕

中央市で子育て支援などを担当しております三井子育て支援課長です。

〔中央市：三井 子育て支援課長〕

三井です。よろしくお願いします。

〔司会〕

それでは早速始めさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

〔知事〕

中央市は児童館が多いんですね、こう見るとね。児童館がずいぶんたくさんあって、それぞれ児童館でボランティア活動をしていただいている方が多いんですが、その方々というのはどの辺の方ですか。どういうふうなあれですか。どういう活動をしている・・・、みんなそれぞれ違うと思いますけれどもね。

〔参加者〕

私はひまわり児童館から参りました。県営の山王団地、清川の近くになります。今、こちらのほうにブラジル、フィリピン、特にブラジルから来た人が入るという話も聞いています。学校も、そして児童館のほうもそのような子が放課後なんかは居場所として参ります。その時にその児童館の先生も一人に対応して下さっていますが、中にはちょっと学校に行っていない子どもがいたりして午前中から来ることもあるんです。そうした時に、ちょっとブラジルの子ですから体格も大きいですね。そうなりますと女性の先生一人ですと、まあ言葉も片言の日本語ですと通じないこともあります。それで、できたらポルトガル語の分かる男性を入れてもらいたいです。何かいざこざがあった時に女性の先生一人だとちょっと本当に危ない面もあると思うんです。やはり市のほうでも田富南小学校、田富小学校のほうにはポルトガル語の分かる通訳の先生を入れていただいていますけれども、やっぱり男性の先生ともなるとちょっとそこまで市のほうは難しいかなと思ひまして、県の力でできましたらそのような先生を見つけていただけて入れていただきたいと思います。

〔知事〕

通訳をね。

〔参加者〕

もう一つ要望としまして、放課後なんかも居場所として来ますけれども、やはり外国人ですので学力もちょっと低いんですね。今、放課後児童クラブというのも杉の子と中央の児童館で学校から帰ってくる1年から3年の子どもの対応でやってくれているんですけれども、そのような子たちが居る所があれば、できたら勉強も児童館で教えることができるようにしていただければありがたいなと思っております。

〔知事〕

山王団地というのはずいぶん外国人の比率が高いそうですね。3割か4割・・・

〔参加者〕

もっといると思います。

〔清水 児童家庭課長〕

半数以上とかという話も聞いています。

〔知事〕

じゃあ奥さんはあれですか、もう全て外国人の、ブラジル人の子どもさんたちを面倒みているわけですか。

〔参加者〕

私は母親クラブですので、例えばクリスマス会とか、児童館祭りなんかで先生と一緒に母親クラブのメンバーが集まって子どもたちのために、例えば何か食べ物を作ったり、催し物を行ったり、工作を行ったりみたいな形でお手伝いをして、たまに夕方行って先生と一緒に子どもの様子を見たりしています。もうほとんど来るのは外国の子なので、ちょっと自由奔放な面もありますが、素直な子どもたちなので、できたらいい方向に持っていけるように、地域とあと行政の力もお借りして、子どもたちのためにやっていけたらと思います。

〔知事〕

そうですね。通訳さんがどうしても足りませんかね。奥さんも通訳、ポルトガル語、ある程度できるんですか。

〔参加者〕

できませんね。だから子どもたちは日本語でしゃべったりもしますが、何か分からない言葉をしゃべっていると何を言っているか分かりませんし、何か嫌なこと言ってっただろうなぐらいにしか分かりませんが・・・。

〔知事〕

そうですね。放課後児童クラブで勉強を教える所もあるんじゃないかなと思うけども、ありませんかね。

〔参加者〕

決められている場所ですね。でも外国人の子どもは行ってないと思います。やっぱり親が迎えに行かないと、ここには預けられない。やはり外国の方は夜遅くまで仕事を共働きでされている方も多いので、ちょっとそこに当てはまらないんですね。

〔知事〕

なるほど。そうですか、そうですか。ありがとうございました。
いかがですか、ほかには。

〔参加者〕

似通ったようなことですが、今ちょうどブラジル人の方のことだったんですけど、学校のほうでもやはりそれは同じというか、今山梨ではかがやき30プランというので1、2年生に対しては30人クラスということですのでごく手厚く見ていただいている、親としてもすごくありがたかったというか、私の子どもは今もう3年と5年なんですけれども、やはり30人は1、2年生だけで、3、4年生になってくるともう……。そして今少子化という中でこの80人の前後で2クラス、3クラスというのが本当に現状でして、その1人が、あと1人引越さないで越してきてなんていうお母さんたちのそんな会話もあります。今言ったように、やっぱり中央市の場合、クラスにそういった子たちが結構な割合を占めていて、先生を見ても大変だなというのがわかります。そしてTTというので市のほうで補助の方を付けてはいただいているんですが、やっぱり参観日なんかに行きますと、手薄というのを感じます。すみません。親のほうとしてはすごく、ああ、やっぱりもうちょっと人数が少なかったらもっと学習も……。その辺を今、児童館もですけど、学校のほうでもちょっと……。そして5、6年生になって参観日に行っても教室に親が入れません。40人という基準があるのはわかっていますけれど、是非山梨でもうちょっと……。

〔知事〕

少人数学級というやつをね。今小学校1、2年、それからこの間中学校1年をやったんですよ。中1ギャップとあって、不登校とか、それがものすごく増えてくるんですよ。山梨は不登校の比率が非常に高くて、これを何とかしなければいかんということで、その時にはやっぱり中学1年生というのは非常に難しい年ごろなんですね。だからここに35人学級というのを導入したんですよ。そしてさらに広げて行くんですけども、どうするか。今度中学2年生とか3年生にしていくのか。あるいは小学校の3、4年生にするのか。その辺のところは今色々検討している最中なんですけどね。まあ追々広げていきますから。

〔参加者〕

よろしくお願いします。

〔知事〕

奥さんの子どもさんは今何歳？

〔参加者〕

上の子が5年生で下の子が3年生です。私、市外だったので、中央市に来て、先ほど知事がおっしゃっていたように本当にサークル活動が盛んで、私はここに初めて結婚してここに来て、そういったサークル活動でお友達を得てきたというか、そういった中でやっぱ

り一対一で家にいるというのはいっぱいっばいで、実家に行くぐらいで本当にあれだったんですけれども、確かに中央市は、児童館というか、子育てサークルが盛んだなということをはかから来てすごく思いました。ありがとうございます。

〔知事〕

少人数学級も1学年増やすごとに3億円掛かるものだからね。

しかし今ちょっと奥さんが言っておられましたけども、こういういろんなサークルとか、そういう場に出てきてですね、お母さん方がね、そして子育ての先輩に色々教えてもらったりとか、同じ子育ての仲間が色々とお互いに相談をし合うというのがあればいいんですけれども、ちょっと引っ込み思案の奥さん方はなかなか出てこれないんですよ。仕事を持っておられる方は保育所に預けられますけれども、特に0歳から3歳までで仕事を持っていない方というのは家庭でちょっとした引きこもり状態になりましてね。そういう人がもっとこういう所に出てきてくれるといいんですけどね。皆さん方は、もうどんどんどんどん出てこられる前向きな方だからいいんですけどね。中にはやっぱりなかなかこういう所に出てくるのが嫌でね、家庭で引きこもっている人が多いんですよ。そういうことが乳児虐待、幼児虐待とか、そういうところにつながったりするものですからね。我々としてはそういう奥さん方に、是非こういう場に出てきてもらいたいということを強く思いますですね。

どうですか、ほかに。

〔参加者〕

今のことでいいですか。ちょっとまとめてきたんですけれども、市町村の役場とかって転入してきた方の窓口があるじゃないですか。そこである程度会話の中でその人の情報をまず得て、まあそれは個人情報なのでちゃんと管理していただきたいんですけども、例えばその方が県外から仕事で来たとか、お嫁に来たから知り合いがいないとか、土地勘がないとか、子どもを預ける所がないとかで不安がありますよね。そして窓口の方がある程度会話の中でその方の情報を得た上で、例えば病院、地図でね、その人に渡せるように病院とか、子どもがいれば小児科はここ、困った時の連絡先はここ、あと公園や図書館、郵便局はここにあるよというのをぱっと見て分かるような、ショッピングセンターとかコインランドリーとかというものとかを、本当にその人に分かるように渡してあげるというだけでも、簡単でなおかつすごい喜ばれるサービスだと思うんです。その市町村それぞれのイベントは何月にこういうのがあるよ、お祭りこういうのがあるよというのを教えるだけでもすごくいいと思うので、そうやって市町村から情報を提供してあげる。でもこういうことでさっきおっしゃったようにイベントに出てくる人はまだいいんですけども、例えば引きこもってはいけないので、おせっかいですけどしばらくして電話をすとか、あとはもうよければですけど、相手がOKであれば伺って、例えば小さい子どもがいる同じぐらいのお母さんとか、近くの人、ベテランさんを連れて一緒に、話を聞くとか悩みを聞くとかというのをできると思うんですよ。やっぱり公務員さんというのは私たちからの税金でのお給料なんだから、変な言い方ですが私たちから雇われているという立場だとすると、そういうサービスってすごくその人のためを思ってできないことはないと思うし、そうい

うふうにして血の通ったサービスをする。昔のおせっかいみたいなものって今見直されていて、そうやってみんな地域で若い人たち、親とか子どもをサポートする。そして住んでいて良かったと思ってもらえるにはどうしたらいいかというのを考えれば、もっともっというアイデアが浮かぶんじゃないかなと思います。

そしてあと一つ、二つちょっと考えてきたんですけれども、一つは今親とか大人の啓発セミナーとか講座とか、色々講演会というのが多いのですけれども、やっぱり私は1年生と2歳9カ月の子どもがいるんですが、子どもがいるからちょっと行きたくてもだめだなと諦めることが多かったです。それでも実家が山梨なので親に預けることもできるんですけれども、託児があるという私は喜んで行くんですが、なしだとやっぱり諦めざるを得ないことがあります。それで私がちょっと考えたのは、県とか市町村で短時間であれば無料の託児を頼まれたら人を派遣する。例えばその人をどうするかというと、主力として主婦の力を使うことがいいと思うんですよ。例えば主婦って子どもを育てる、保育をするという保育士の役割、病気の時は看護する看護師の役割、もうちょっと年配になってくれば親を介護する介護士の役割と、そういう資格がなくても経験というのはそれぞれ皆さんすごい力を持っていて、そういう経験ある人たちってたくさんいると思うんです。その力を利用しないともったいないと思うんです。それでやっぱり男の人で余り家事とか子育てに興味ないような方は、この主婦のやっていることを仕事として多分捉えてない方が多いと思うんですけれども、仕事としてみるとすごい免許はなくてもちゃんとやることはできて、サポートぐらいはできているんですね。そこでやっぱり主婦バンクみたいに登録してもらって、空いている時間を私たちは少しでも提供して、そしてその賃金として県や市町村からそんなに多くはなくても賃金としていただく。本当はやっぱりそれだけで嬉しいですし、自分たちの今までの子育てが、あっこんな形で役に立つんだという自信にもなると思うんです。私も中央市でファミリーサポートセンターのサポーターになって勉強させていただいて預かることがあるんですけれども、700円というのは預かる方にはうれしいんですけど、自分が預けるとなるとやっぱり経済力がなくて700円でもやっぱり考えちゃうんですね。でもこのちょっとの託児で見るとみたいな形で、少しでもお金が貰えればある程度自信が付きますし、そのいただいたお金というのは何かにも使えると思うんですよ。今、民主党に変わって子ども手当というのがいただけるようになるのか分からないけれども、現金で貰うのはすごくありがたいんですけど、現金だと本当に子どもにそれを使うかと言うと、実際のところはちょっと違うような気がするんですね、多分・

〔知事〕

だめですか、使いませんか。

〔参加者〕

そうですね。本当に子どもに使うんだったら子どものために掛かる費用、例えば学校の入学のための制服とか・・・。外国では鉛筆1本でも支給してくれる所もあると聞くんですけども、そこまでして本当に子どものために使っていくことに国が出してくれるんじゃないんですけど、実際のところは結局子育て支援というのは、現金だと親の経済支援という形ですね。だから、子育て支援というのはイコール親支援。

今必要なのは、子育てがある程度終わったらさあ働きましようと言っても経験がない。ある程度年になっちゃうと仕事がない。ああどうしようってなると。そうじゃなくて、例えば私がさっき言ったように主婦バンクみたいに登録して、子育て中でも社会と何らかに関わりが持てて、でも少しでも賃金をいただいて、そしてある程度子育てが終わって、しっかり自立して仕事をすれば、それで税金も払えるし、そしたら国も少し良くなってというふうに、だから女性にもやっぱり経済力があつたほうが家庭の中でもいいに当たり前なので、長い目を見た子育て支援というのがこういうことになっていけば一番いいんじゃないかなと思います。どうでしょうか。

〔知事〕

おっしゃるとおりですね。色々な機会を捉えて子育てをする母親、若い母親に情報を提供してやることは大事ですよ。まあ転居届の段階もいいと思いますし、色々ほかにあると思いますが。まあインターネットのホームページね、県のあれはなんて言いましたっけ・・

〔清水 児童家庭課長〕

子育てネットです。

〔知事〕

子育てネットというのがあるんですがね、これをもっと充実しなければだめだと・・・。

〔参加者〕

余り見たことなく、すみません。

〔知事〕

あれで充実していればね。そして色々そういうお母さん方のかゆい所に手が届くようないろんな情報が入っていたりね。それも地域地域にちゃんとしたものがあって、クリックすれば、例えば中央市なら中央市にすぐ飛んでこれるように、そういう仕組みがあると非常にいいなと思ってですね、それは来年度でもやろうかなと思っています。子育てネットのホームページはうんと充実しようかなと思っているんですけどね。まあそうですね、色々なそういう機会を捉えて情報を提供してやるというのは大変大事なことだと思いますね。

〔参加者〕

できないと言うのは簡単で、それよりもどうやったらできるかというのを是非考えていただきたいなと思います。

〔知事〕

ファミリーサポートセンターが少し高いんですかね。

そうそう、ファミリーサポートセンターをやっておられる方がいますね。どなたでしたっけ。預け側ですか。両方やっておられる、ああそうですか。どうですか、今それをおやりになって。

〔参加者〕

そうですね。まだでも預けようかなと思うけど、何とか見れるうちは連れて歩いちゃうんですよね。だから相手も、預けてもらう人もやっぱりためらうだろうなと思いますけど、お金がやっぱりない中で何時間もずっとというのは考えると思うんです。

〔知事〕

そうですかね。まだじゃあ実際預けたことはないんですか。

〔参加者〕

ないですね。預かったこともまだ1回だけしかないです。まだ入ったばかりなので・・。

〔知事〕

子どもさんは今何歳？

〔参加者〕

7歳と5歳、あと2歳。

〔知事〕

まだちょっとね・・

〔参加者〕

預かるにも一番下の子と一緒に預かるから、ちょっと考えながら・・。でも一応下の子がいろんな子と触れ合うために預かるというのもしていますけど。

〔知事〕

あなたもファミリーサポートですか。

〔参加者〕

はい。一応預かる側と預ける側の会員にさせていただいているんですけど、まだ利用はしたことが・・

〔知事〕

ないですか。

〔参加者〕

はい。実際預けようと思ってもやっぱりためらいますね。

〔知事〕

ためらう。要は赤の他人に預けるのはちょっと心配だと・・

〔参加者〕

いえ、そうではなくて、まず最初に何か特別なことがない限りは自分で見ようというのが前提にあるんで・・・。

〔知事〕

アメリカなんかはベビーシッター産業がものすごく発達しているんですよ。もう気楽にどんどんどん預けてね。これはもうかなり大きい産業になっていますよね。ファミリーサポートセンターもやっぱりまだ多少預けることにはためらいがあるんでしょうかね。

〔清水 福祉保健部理事〕

まだお母さんが育てるというイメージが回りの人も強いんでしょうかね。

〔参加者〕

そうですね。働いていない人は・・・

〔知事〕

その辺はドライに考えて、人生を楽しんだり、色々とさっき言ったようなそういう学習教室とかそういうのに行ってスキルアップしてもいいと思うんですけどね。

〔清水 福祉保健部理事〕

県のぴゅあ総合、男女共同参画推進センターなんかですと、託児がありますのでね。

〔知事〕

託児がある所はいいですね。

〔清水 福祉保健部理事〕

そういう女性のためのものをどんどん今やっていますから。

〔知事〕

最近ショッピングセンターとか、そういう所でも大分託児のそういうのが増えてきましたけどね。

ほかにいかがですか。

〔参加者〕

私は幼児サークル、中央児童館でTJCというサークルをやっている者なんですけど、0歳から3歳まででやっている者なんですけど、私は大阪からちょっと嫁に来て、すごい児童館があつて助かったんですよ。特に中央市って児童館の先生が相当素晴らしいですよ。すごいよく話を聞いてくれて分かってくれて、客観的なことも言ってくれて、すごい先生が本当に素晴らしくて、いろんな先生方がいるんですよ。すごい良い方ばかりで、だ

から個人的な相談もできるし、すごい本当に私ここに引っ越してきて良かったなと皆に言っているんです。

〔知事〕

やっぱり児童館の数が多いですよ、確かにね。

〔参加者〕

でも多分0歳から3歳児が今なかなか入ってこないんですね。人数が少なくなる一方なんですよ。市でやっているお金をちょっと出してやるやつに行っていて少なくなったというのもあるし、お母さん方が引いちゃって入らないというのもあって・・・。

〔知事〕

段々減ってくるんですか。

〔参加者〕

そう、すごい減ってきているんですよ。0歳、やっぱり同じぐらいの一人目のお母さん方は公園とかで誘って児童館に来て、それでやっぱり成り立つような感じなんですよ。家から連れ出さなければというような感じで、今、チラシを配ったり、色々やっているんですが、なかなかちょっと難しいんですよ。児童館にそうやって来てもらえばサークルがあったりですごく楽しく、何て言うんですかサークルをやると仲間の意識がすごいできて・・・、私はそういう人たちをいっぱい見てきたんです。今上の子が3年生で、下の子が2歳で、3人子どもがいるんですけど、何か長年ずっとサークルに加わってたりするんですけど、今何て言うんですかね、児童館って中央市になってすごい変わっちゃったんです。何か色々規制出てきたり・・・。

〔知事〕

規制が出てきた・・・

〔参加者〕

児童館の先生も色々やってくれているんですが、何か中央市になってからそういうふうな規制、やっぱり出てくるとは思いますし、やっぱりお金も大変だろうし、それはすごい分かるんですけど、やっぱりある程度児童館の先生にいろんなものを任せて、何て言うんですか、相談したら先生が許可してくれて、規制があっても臨機応変に対応してくれたらすごく嬉しいなと、サークルをやっていて思います。そんなこともあってか、一人でお母さんに声を掛けることを私たちもやっているけど、なかなか入ってこなくて、だから続かないんですよ、サークルが。

〔知事〕

もったいないですよ、けどね。せつかくたくさん児童館があるのにね。

〔参加者〕

新しい人が児童館に来てくれれば、児童館の先生もうまく対応してくれるんです。すごい先生たち話を聞いてくれるんですよね。色々声を掛けてくれたり、名前を覚えてくれるんですよね、すごく。だからもうちょっと臨機応変に対応してくれたらうれしいなと思いますね、今ちょっと。

〔知事〕

規制が強くなったというのは、例えばどのような違いですか。

〔参加者〕

もうガスが使えなくなったり、みんなでクリスマス会しようというのにガスとか使えなくて・・

〔知事〕

ガス、ああプロパンガスね。

〔参加者〕

そこでみんなでシチューを作ってやっていたりしたんですけど、それもできないからじゃあお弁当を買ってくるか・・、でもお金もないしなとって、いろんなことが出てきたんです・・。

〔知事〕

どうですか。何か基準があるんですかね。

〔中央市：三井 子育て支援課長〕

ガスは使えないということはないと思うんですよね。

〔参加者〕

本当ですか。余り使わないようにしようということなんですか。

〔中央市：三井 子育て支援課長〕

いや、ガスの禁止というのは・・

〔参加者〕

申請を出すんですか。中央児童館で2週間前に餅つきをやった時は、火を焚いて、その横でガスでとん汁を作ったんですよね。それはちょっと私も先生に手配していただいたので、どういう経緯でそうになったのかはよく分からないんですが。申請があるんですか、ガスを使うのに。

〔参加者〕

私、自分で持っていきましたもの。そういう細かなことがすごい増えたように思います。

〔中央市：三井 子育て支援課長〕

ちょっと今分からないんですが、ただガスが使えないということは多分ないと思いますので・・・。

〔参加者〕

児童館の先生が今まで4月から色々行事をしているんですけど、全部立替えて下さっているんですよ。助成金がなかなか出なくて。

〔中央市：三井 子育て支援課長〕

母親クラブへの補助金は、一応全部のクラブから申請書が出てきたところで決裁を取るようなことになっているんですよ。それで全部が多分揃ってなくて事務的にちょっと遅れるということもあると思うんですよ。出ないということはないです。

〔参加者〕

だって去年は11月ですよ。おかしいですよ。

〔参加者〕

だから小学生の行事とかも少なくなったりして、もうちょっと臨機応変にうまいこと子どもたちのことを考えてやってほしいなともものすごい思いました。

〔知事〕

ほかにいかがですか。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

知事さんおっしゃいましたけど、私なんか大阪から山梨に上の子が6カ月の時に越してきて、その時に本当に引っ張り出してもらったんですよ。サークルがありますよ、出てきたらいいですよと。本当に私なんか引きこもるタイプなのに引っ張り出してもらったということをしごくありがたいと思っています。そして越してきた所に素晴らしい児童館があって、常駐の先生も3人もいらっちゃって、もういろんな話を聞いていただいてすごく良かったんですけども、今は、中央市になってから常駐の先生が一人になりまして、結構引き締められているという感じですが、まあそれでも本当に素晴らしいと思います。今でも素晴らしいと思うんですけど、合併する前から比べると後退しているという感じがあるので、是非とも・・・。

〔知事〕

奥さんは合併前はどっちの町だったんですか。

〔参加者〕

玉穂町です。でも本当に素晴らしいので、素晴らしい山梨県で、良かった時のレベルでずっといてほしいと。

〔知事〕

町によってそれぞれそういうものについての施策の差があってね、市になると足して2で割りますからね（笑）

〔参加者〕

一番上に合わせてもらったら、もう本当に・・・

〔参加者〕

山梨っていい所だなと思いました、本当に。

〔知事〕

市の方は市の方で悩みがあるんでしょうけどね。まあ課長さんが聞いていますから大丈夫だと思います。

ほかに何かありますかね。

〔参加者〕

私も5歳と3歳と1歳になったばかりの子がいるんですけど、中央市でわんぱくクラブという旧田富町のサークルに上の子からずっと入って入ってサークル活動をしているんですけど、特に助成金とかではなくて自分たちでお家でいらなくなった子どもの物とかをフリーマーケットに出して、そこで得たお金でサークル活動を1年間、クリスマス会とか、子どもたちのプレゼントとかを買ったり、ずっとその流れで来ています。

中央市になってから子育て支援課とかできて、上の子の時に比べて一番下の子の時は環境がとてよくなっていると私は感じています。市のほうでも親子で出る場がとて増えて、参加する機会とかもとて多くて、サークル活動以外でもそういう参加できる場ができたので、とて良くなったと思います。

〔知事〕

今度は褒められている（笑）

〔参加者〕

小学生の子がまだいないので、またちょっと小学生のお子さんを持っているママたちとは違うとは思いますが、私の場合はその場が増えただけでとて助かっています。

〔知事〕

確かにね。そうですか、そうですか。

いかがですかね、ほかにね。

〔参加者〕

私は豊富児童館から来ました。豊富地区においては、ちびっこ広場というのがどんどんなくなってきているんですよ。ちょっと家事の合間に歩いて行ける距離に遊具がある。そういう場所がどんどん減ってきていまして、これを何とかしていただきたいなど。昭和の50年前後にちびっこ広場って全国でできたと思うんですけど、もう遊具も古くなってきて危ないからということで撤去される一方で、新しいのを入れて下さらないんですよ。

〔知事〕

確かにね。まあ少子化になってきたもんだから。まあ児童公園というやつですよ。児童公園よりもっと小さいやつですか。

〔参加者〕

もっと小さい、ここにあるのと同じような程度なんですけど。うちの辺は少子化もひどく進んでいまして、昔のように近所に小さい子どもがたくさんいれば、子ども同士で遊ぶということは多分できるんですけど、本当に子どもが少なくて、子ども同士で遊ぶという機会がすごく減ってきているんですよ。外遊びがすごく減っていまして、山梨の子どもは体力テストでも全国平均下回っているという話を聞きますけど、外遊びができる環境というものを、子どもが少なくても考えていただけたらなと・・・。

〔知事〕

児童館にはやっぱり、豊富の児童館にもこういう遊具はありますか。

〔参加者〕

あります。でも児童館まで出掛けるといって車で行くみたいな感じになっちゃうんですよ。子育ての合間に、もう5分か10分歩けば行けるような所に大概はあるんですけども。もう本当に遊具がなくなってきちゃっているので、その辺を考えていただければ・・・。

〔知事〕

そうですね。やっぱり子どもが少なくなっているものですから、なかなか全部維持するのが大変だね。どうしても大変なんですよ。

〔参加者〕

昔のほうがかえって子育てしやすかったと思うんですよ、子どもがいっぱいいたのでね。今みんな親がついていかないと、どうしても何もできないみたいな形・・・。

〔知事〕

そうですか、ちびっこ広場ね。

あといかがですか。はい、どうぞ。

〔参加者〕

私はずっと仕事をしながら子育てをしていて、2年生の子と年長さんの子どもがいるんですけど、再来年、4年生になる時に児童館には入れなくなるんですね。その時に、夏なら別にいいと思うんですけど、冬4時、4時半、5時近くに帰宅するとなると、もうあたりが暗くなっているんですけど街灯がすごく少ないんです。今、もうこの時期はかなり暗いので、2年後に歩かせて帰るということを考えた時に、ちょっと街灯が少ないので、もうちょっと子どもが、せめて通学する道にはもうちょっと街灯を増やしていただけると助かるかなと思ひまして・・・。

〔知事〕

どの小学校にいらっているんですか。

〔参加者〕

田富小学校です。

〔知事〕

田富小学校でね。あの周辺はそうなんですかね。

〔参加者〕

あの周辺は多いんですけど、あそこから子どもが歩く道のりでちょっと民家のあるところに入ると街灯が本当に少なくなっていて、私の家の近くだと、今、西通り線が今度工事をするという話になっているんですけど、まず街灯が直線距離200メートルの中に2つぐらいしかないんです。そうするともう大人がちょっと歩くにも怖いかなと感じるところがやっぱりあって、子どもがこれから先大きくなって、自分で夜歩く、5時頃には帰りなさいと言っても、やっぱり暗くなってからだとちょっと危険かなと思うので、もうちょっと・・・。

〔知事〕

今度はじゃあ小学校4年になると放課後児童クラブに入るわけですか。

〔中央市：三井 子育て支援課長〕

放課後児童クラブは大体3年生までで、4年生になると・・・。

〔参加者〕

自由外来でいったん家に帰ってかばんを置いてからであれば児童館に行けるんですけど、それでも6時までで、親のお迎えは必要としないので、自分で帰るといってやっぱり暗い中帰らなきゃいけないということで、私も6時までにお迎えに行けるかということ、今行けている時と行けない時が・・・

〔知事〕

子どもさんはどこに行くんですか、小学校4年になったら。

〔参加者〕

今考えているのは鍵を持たせて一回帰らせて、自由外来で児童館に行かせるか、もしくは私の実家も主人の実家も商売をするので余りちょっと店には子どもは置きたくないんですね、お客さんが来るので。だけど時々はちょっとおばあちゃんの家に行くか、おばあちゃんに迎えに来てもらうかということを考えていかなければいけないんですけど。まあ一応基本は一回家に帰らせて、自転車で近所の子と、今やっぱり近くにも同じように児童館へ行っている子がいるので、同級生同士で行ってもらおうとか。でもやっぱり帰りには暗い。それがちょっと気にかかるところなので・・・。

〔知事〕

まあ街灯もどこに付けるかというのがなかなか、もう全ての所に付けるというわけにも行きませんか。だからやっぱり通学路になっている所とか、特に危険な所とか、そういうふうな所は地域の自治会とかで、ここということに決めてもらって要望してくれるといいですよ。これ市道の場合には市が付けるし、県道の場合は県が付けたりしますけれども、どこかまとめてくれると一番いいんですがね。奥さんの家のためだけに街灯を3つも4つも・・・(笑) ある程度ね・・・

〔参加者〕

やっぱり子どもの通学路にはやっぱりそんなに多くはないと思う。民家があるととたんに減っていくというか、道路沿いは多いんですけど、民家に近くなるととたんに減っていくんですね、子どもの通学路であっても。

〔知事〕

やっぱり夜間、あれでしょうか、苦情が出るんでしょうかね。

〔参加者〕

どうですかね。

〔知事〕

まあ中にはそういうことを言う人もいるかもしれませんね。

〔清水 福祉保健部理事〕

それぞれのお家で明かりが着くのかもしれませんね。それぞれのお家で明かりが着くので、街灯はなくても門のところが着いたりとか、そういうふうな意味かしら。

〔参加者〕

田んぼの中とかはないですものね。畑の中とかね。

〔参加者〕

特に中学生が田んぼの中を通るんですよね。あれはちょっと危ないかなとよく思います。

〔参加者〕

中学生になると部活もあったりして帰りが遅くなるんですよ。暗い中を帰ってくるとちょっと危ないかなと思います。

〔参加者〕

物騒な事件が多いですから、本当に親としては心配になります。

〔知事〕

通学路になっている所は大体あるんだけどね。

〔参加者〕

私もまだ子どもが小学生ですが、教育課程が変わって、今度6校時がすごく高学年になると増えて、子どもたちが帰ってくるのが5時過ぎて暗いんですよ。よそのお子さんも本当に怖いというか、本当に田舎は田んぼがあってすごく自然環境はあれなんですけれども、やっぱりちょっと街灯が少ないという同じことを感じています。中学生のお母さんは、本当に通学路が暗くて、東花輪の駅のほうを回り道させてるというふうに伺ったんですけど、ただ東花輪の駅周辺もあれだけ学生が利用している割にはちょっと環境がよくないので、整えていただきたいなということを感じています。朝の利用者なんていうのは本当にぎゅうぎゅうに乗っていくほど多いんですけど・・・。

〔知事〕

あそこは今無人駅なんじゃないかな。

常駐の駅員さんおられるんですか。

〔参加者〕

駅近くのカーブが結構危ない感じで、中学生なんかは確かに向こうを回り道して帰ってくるんですけど、ああ危ないなというのは、どちらも運転手側も感じることであり、歩いている子たちにとって、本当に街灯が少ないというのはすごく私も感じていたものですから・・・、すみません、口を挟むようなことをして・・・。

〔知事〕

まあ通学路はやっぱり街灯は整備しなければいけませんね、本当にね。まあどこにでもというわけにはなかなかね。

あとはどうですかね。まだお話をしておられない方というところ・・・。

〔参加者〕

玉穂の北部児童館で、にこにこKIDSというサークルをやっております。

今3人目を妊娠しております、知事さん最初のほうで山梨は安全な出産が多いとおっしゃられたんですけど、実際でも出産を取り扱っている病院はとても少ないなと感じまして、私第一希望の病院は妊娠4週、気付いてすぐ行ったんですけどだめだったんです、分娩いっぱいですと言われて。掛かりたい病院に掛かるには妊娠する前から通っていないと・・・(笑)

〔知事〕

この辺りにはいい産婦人科があるように思いますけどね。

〔参加者〕

そうですね。多いんですけど、その中でさらに個室がどうか、自分の希望するものが色々ありますので、その中で選んだ第一希望は残念ながらだめだったんですけども。

〔知事〕

まあお医者さん不足がありましてね。これ3年、5年、10年経つと間違いなく解消してきますけどね。今、もう日本全体がそうですけど、お医者さんの数を急速に増やしていますからね。特に産婦人科と小児科が少ないんですよ。あと麻酔科とか外科とかも少なくなるんですけども、これは今一生懸命増やしていますから。まあなかなかしかしお医者さんというのはいっぺんに育たなくてね、やっぱり6年とか8年掛かるわけですがね。まあそうですね、その辺の不自由はありますけどね。

〔参加者〕

まだ私はそれでもいいほうだと思っているんですけど、私は里帰りしたかったんですけど、私の実家のほうでは市の病院全体が里帰り出産お断りになっているんです。

〔知事〕

何市ですか。

〔参加者〕

私は福島県なんですけど、里帰りの人が多いんです。完全にもう私も主人も福島の人間なので、頼る人がこちらにはいないので、まあ子どもは授かったけど実際生まれる時はどうしようみたいな感じで今いるんですけど、是非山梨県はそんなことはないようにしていただきたいなと思います。

〔知事〕

いや、分かりました。そうですね、まああとそうだね5年もすればかなりよくなると思うんですけど、出産を5年待ってもらうわけにはいかないよね。(笑)特に産婦人科は増やしているんですよ。産婦人科の、いわゆるお医者さんの卵に対しては特別な手当を出した

りとかしましてね、大分増えてはきましたね、少しずつね。まあしかしどうしても出産に伴う事故がありましてね。それがあつた時には大変なもんだから敬遠されるんですよ、どうしてもね。

いかがですか。

〔参加者〕

私は3歳と9カ月の子どもがいるんですけど、予防接種がいろんな種類がありすぎて、最近上の子の時には余り聞かなかつたんですけど、下の子の場合でヒブワクチンというのは最近出てきて、1歳から3回ですかね、受けないと

〔知事〕

ヒブワクチンって何ですか。

〔参加者〕

ペニシリン・・・

〔参加者〕

髄膜炎などを起こすこともあるようで、3回は受けなきゃやっぱり効かないですから、1歳未満は。まあ1歳を越えれば1回でいいということなんですけど。まあそれ以外に受けなきゃ、やっぱり受けたほうがいい予防接種がたくさんあるわけで、私の知り合いの知り合いの方で、お子さんがやっぱりそれに罹っちゃつたらしくて大変な思いをしたということを知り、できれば補助を出していただくとか、そういうことをしていただけたら親的にも大分楽になりますし・・・。

〔知事〕

1回幾らぐらいですか。

〔参加者〕

結構、6、7千円とかはするんですよ。病院にもよるみたいなんですけど、そのヒブワクチン以外にもやっぱり水ぼうそうだとかおたふくとかもやらなきゃいけないし、やっぱり打つたほうがいいですよ。それでやっぱり子どもが二人も三人もいたらかなりの出費になりますし、できれば補助をいただけたらと思うんですけども。

〔知事〕

子ども手当・・・(笑)

〔参加者〕

先ほどやっぱり少子化、少子化になっているとおっしゃっているんだつたら、その分ちよつと出していただけたらなと思うんですけど。

〔知事〕

2万6千円来ますから・・・(笑)

今、お子さん何人ですか。

〔参加者〕

2人です。

〔知事〕

2人。ああそうですか、そうですか。

〔参加者〕

もしよければちょっと検討していただきたいなと思います。

〔参加者〕

たくさんいろんな種類がありますからね。法定になっているものは無料で受けられるけども・・・

〔知事〕

今度の新型インフルエンザのワクチンは、まあなかなか行き届かなくて申し訳ない・・・

〔参加者〕

そう、行きつけのお医者さんももう予約分でいっぱいになっちゃって、ちょっと無理と言われちゃったんで探さなきゃいけないなと・・・

〔知事〕

来月初旬からはできるように、普通の幼児、子どもですね、するんですけどね。大分ね。もうお子さんかかりましたか。

どうですか。

〔参加者〕

今、話題といたら結構、新型インフルエンザの予防接種のことばかりで、すごい行列ができてちょっとしたパニックになっているので、その辺ちょっと整備してもらって、受けなきゃいけないんだったら県とかでそういう日を設けてもらって、最悪有料でもそういう決まった日にちを設定してもらって、それでこの日ですと言ってくれば、多分みんな必死になって受けようとしているのも少しは収まるのかなとも思います。

〔知事〕

だから乳幼児、子どもの場合にはどこで接種をするかですね。そこから決めていかなきゃいけないんですよ。学校ということもあるかもしれないし、まあかかりつけのお医者さんがあればそこでやるということもあるかもしれないし、そこから決めていかなきゃあ

いけないですね。

〔参加者〕

予防接種みたいに決めていただければ・・・

〔知事〕

ヒブワクチンなんか決まっているんですか。

〔参加者〕

知らない方もいらっしゃるし・・・

〔知事〕

それは普通の病院に行けば受けられるということ・・・

〔参加者〕

いや、それが全然数が足りないので、3カ月待ちとか、もっと待ったりとかするんです。なかなか受けられなくて。

〔参加者〕

知らないと知らないで終わっちゃうんですよ。

〔知事〕

そうですか。分かりました。

〔参加者〕

すみません、いいですか。

ちょっと違う町と比べるとは失礼かもしれないんですけど、幼稚園に子どもが今行っているんですけど、奨励金（就園奨励費）ですか、それが町によってすごい差があるんですよ。ちょっと私は市川三郷の幼稚園に勤めていまして、市川三郷はとにかくすごいよくて、全ての面で、子どもに対するのが。それはどうやって決めるものなんですか。

〔知事〕

奨励金が高いんですか。

〔参加者〕

市川三郷はかなりの方が丸々いただけるんです。

〔清水 児童家庭課長〕

例えば月2万1千円ぐらいの授業料があるとすれば、一定の条件を満たせば全額奨励費

として補助していただける場合があるというわけです。だから無料で行けるという形になります。

〔参加者〕

返ってくるお金が違うんですね。

〔知事〕

あれはそうなんですよね。確か地方交付税でも算定してありますが、出す金額とかは市町村の判断なんですよね。県は地方交付税というもののの中に算定されているものですから、だから是非それは各市町村さん、幼稚園にそのお金を出してやって下さいと、こう言っているんですけども、まあ市町村もそれぞれ財政事情があるものですから、ちゃんと出す所と、まあまけて出す所と出さない所があるんですね。まあ中央市の場合には幼稚園が多分多いから、なかなか全部出し切れないかもしれないね。

〔参加者〕

多くはないです。

〔知事〕

2カ所。ああそう。あなたがお勤めになっている幼稚園にはかなりの金額が行くわけですね。

〔参加者〕

そうですね。市川三郷の人が多いんですけど、でもやっぱり今選べる時代ですから、甲府からとかも色々来ているわけで、その中でも中央市は金額が低いんですよ。だからちょっと・・・。

あと新型インフルエンザの予防接種も市川三郷町はただなんですよ。だから、そういうのも同じ子どもを持つ親として平等にさせていただくのがよいと思います。

〔知事〕

基本はあれなんですよね。生活保護を受けている方とか、それから住民税を納めていない、まあ比較的所得の低いということですね、そういう方々にはただになるのかな、確かね、ただでしたね。

〔清水 福祉保健部理事〕

第1回目を市町村のほうで無料にすれば、お受けになっても半分の2分の1の3, 200円・・・

〔知事〕

3, 200円ね。全部が全部ただというわけにはいかない。市川三郷町だって全部ただにはなっていないわけでしょう。比較的所得が低い方とか、そうじゃないですか。

〔参加者〕

結構ただですね。だからそれだったら学校でもらえばいいよねなんていう話が出ていて、じゃあ町外に住んでいるその小学校に行った子は一人だけお金を払うんですかみたいな状態になっちゃうじゃないですかね。

※ 市川三郷町は、国・県・町で全額助成を行う「生活保護世帯」「平成21年度町民税非課税世帯」以外に、町独自で「妊婦と1歳から中学3年生までの全員」に全額助成を行っている。

〔知事〕

まあさっきから中央市は児童館とかそういうことはいいと言ったけど、市川三郷町はそういうふうに医療のほう割といいのかもしれないね。

〔参加者〕

何か中3まで無料ですよ。

〔知事〕

中学3年まで、ああ乳幼児のね、窓口無料化というやつがね。あれもやはり市町村でずいぶん違うんですよ。県は5、6歳までしか無料にしませんからね。その先、さらに無料にするためにはみんな各市町村の自分の判断でやるわけですね。だから市町村長さんの判断ですね。お金は決まっているわけですから、何に使うんだということなんです。中3までそれはやる所もあるけれども、それだと非常に大きなお金が掛かるから、まあそれは勘弁してもらってということもあったりするし、しかし今度まあ同じようなことを言いますが、子ども手当も出るからいいんじゃないかと私は思うんですが、どうですかね。

〔参加者〕

本当に出る？

〔知事〕

それは出ますよ。

〔参加者〕

2万6千円本当に出るんですか。

〔知事〕

2万6千円出るでしょう。最初の年はその半分と言っていますけどね、これは100%出ますね。多分・・

〔参加者〕

予算がどこから出る・・・

〔知事〕

出し方は多分市町村を通じて出すと思います。これは所得のいかに係りなく全部、あれ中学3年までだね。子どもがいれば一人当たり2万6千円。まあ来年は1万3千円ですがね。

〔参加者〕

2万6千円出たら、ほかのものを、何か急に支払わなければならないとか、そういうことはないんですか。

〔知事〕

それは今民主党政権は考えていないようですね。ただ配偶者控除とか扶養控除とか、あれはやめますよという・・・。

〔参加者〕

子ども関係ので下がるということはないですか。

〔知事〕

それはないでしょうね。もっとも子育て支援手当か、あれはなくなったということはありません。

〔参加者〕

ああ、そうですね。私ももらおうと思ったんですけど・・・。でもしょうがないと思ったから・・・

〔知事〕

民主党政権の目玉ですからね、これは必ず、100%やると思いますよ。

〔参加者〕

でもその出ることによって、将来的に今の子どもたちの負担になるようなことはないんでしょうか。その予算がどこからどのように・・・

〔知事〕

それはやっぱりそうですね。赤字国債ということになるとね、それは借金が積み重なるということはありませんよね。

〔参加者〕

今一時的には中学生まで支給されたとしても、その子どもたちがいずれ背負っていくお

金になったら何にもならないので・・

〔知事〕

それは借金を返さなければいけませんからね。それは全くそうですね。

まあ民主党政権はコンクリートから人へということで公共事業とかそういうものをできるだけ削って、そしてそういう子育て、子ども手当とか、そういうものにお金を回そうとしているわけですよ。それも一つの考え方ですよ。まあおっしゃるように借金が増えたら何もなりませんからね。

〔参加者〕

そうです。子どもたちが背負うことになって、大人になった時に莫大な税金を払うようになっていけば何もならないし・・、はっきり明確な予算であればいいんですけど、出所が。

〔知事〕

まあ借金、借金が増えるということだけじゃ困りますよね、確かにね。それはそのとおりですね。

ほかはいかがでしょうかね。

〔参加者〕

私、何も考えてなくて、皆さんよく考えていて、すごく勉強になりました。私も児童館の母親クラブなんですけど、中央市は児童館がたくさんあって、実家が甲府なんですけど、甲府で甥っこや姪っこたちと同居していたんですけど、その子たちは遊びに行く所がなくて、子育てするにもずっと家にいて、何かお嫁さんもちょっとこもっているような状態だったのでありがたくて・・。

〔知事〕

その点はいいですよね、確かに。甲府は余り多くないですね。

〔参加者〕

子どもが6年生と4年生なので、今はよく知らないんですけど、何か乳幼児の健診も甲府だと少ないみたいで、中央市だとかは、田富だったんですけどカルテみたいなものができていて、前はどうだったとか、ちゃんとそういう方が指導して下さったので、甲府とかもそういうふうになったらいいのになと思うんですよ。

〔知事〕

田富とか、まあ玉穂とか、割と財政が豊かな所でもあるんですよ。工場がずいぶんありますからね、釜無工業団地なんてね。まあしかし、それは市長さんの方針でしょうね、きっとね。

〔司会〕

ご発言をしていない方はいらっしゃいますか。いかがでしょうか。

〔参加者〕

玉穂の西部児童館でピンクプリンというサークルを一緒にやっています。規制がちょっと厳しくなったというお話があったんですけど、私もちょっと今年から結構感じています。毎年サークルのチラシを作ってスーパーとか役場とか郵便局に貼ってもらっていたんですけど、それにどこどこでやっていますとか、皆さん気軽に見学に来て下さいとかいって、一応県からの助成金とか参加してくれるメンバー一人ひとり一応年間で1,500円掛かりますというのを書いて、あと何か問い合わせは西部児童館までという電話番号も載せて配っていて、去年までは何も言われなかったんです。今年になって年間1,500円と書いてあるからもうこのポスター、市のほうから、その費用を消してと言われて、これじゃいいんですかと言ったら、西部児童館宛に連絡が来ると対応する先生も大変だし、何かそのサークルと最近始まった市でやっている児童館の催し物、有料でやっていたりとかするやつと混同しちゃって問い合わせの電話が多くなって、役場のほうにも電話がかかってきてちょっと対応しきれないからという理由で、ポスターを全部撤去して下さいと言われたんです。そうすると結局口コミでしかメンバーを募集することができなくなって、友達の友達づてとか、そういう感じになって、知り合いづてに何とかメンバーを募集するという感じになってきているので、その辺は、ポスターを貼るぐらいはさせてほしいなと思っています。

予算が下りないという話もあったんですが、その予算に関して色々市のほうから今までのサークルで使った内容の内訳とか、色々調査が入っているという話を先生から聞いたんですけど、それと助成金を貰ってやっているサークルである以上、玉穂以外に住んでいる人が来るのはよくないとか・・・児童館自体は別にどこの市の人に来てもいいんだけど、そのサークルで活動するメンバーの中に玉穂以外の人が入るのはよくないというふうに言われたんですけど、そんなことを言ったら本当にはっきり言って集まらないですよ。甲府市の方からとか、玉穂に元住んでいて引っ越した方とか、そんな形で成り立っているのに、本当に玉穂だけに制限したらそのサークルが存在できなくなっちゃうので、その辺もうちょっと融通をきかせていただきたいなとちょっと思いました。

〔知事〕

まあ町の頃は、やっぱりある意味じゃアウトに融通をきかせてやっていたんですが、市となると理屈できちっと、まあその理屈は分かるんですよ、よくね。それはそのとおりなんけども、余り杓子定規だとうまくないじゃないかなということもありますね、確かにね。そうですか。難しいもんです。確かにポスターなんかもそうやって貼ってあると、いかにも児童館がやっている事業のように見られて、しかし児童館のほうは責任が持てないわけですからね。それは困りますと、こう言うんだろうけども。なるほどね、そうですか。

〔司会〕

これだけは言っておかないと気が済まないということがあれば・・・。
はい。

〔参加者〕

保育園の0歳児の充実をお願いしたいと思います。

〔知事〕

0歳児保育ですね。

〔参加者〕

豊富保育園は0歳児保育が今ないんですよ。私、二人目を出産した時に実家の豊富に戻ったんですけども、そこで預けられるものだと思って、どこの保育園にも0歳児保育があるもんだと思っていたら、豊富はないと言われてびっくりしました。今どきない所もあるんだなと思って。

〔知事〕

今どうなんですかね。

〔清水 福祉保健部理事〕

実は県内でもやっぱりしていない所が結構あります、0歳児は。

〔知事〕

まあ手間が掛かるからということもあるんですよね。
あれは県も補助しているんでしょうかね。

〔清水 福祉保健部理事〕

その保育事業に関する補助の算定価格は上がりますね。一人に対して、もちろん保育士さんの数もやっぱり0歳、未満児というのは必要ですから。

〔参加者〕

豊富に嫁いたら子どもは持てないのかなと思いますよね。その時に、まだ豊富村だったんですけど、役場の方と口論になりまして・・・

〔清水 福祉保健部理事〕

でも段々多くなっていますね。

〔知事〕

大分多くなっている。段々多くなってきているようですけどね。

〔清水 児童家庭課長〕

県内に246ほどの保育所があって、その内182が0歳児、乳児保育をやっているの
で、結構率はあるんですけどね。

〔知事〕

今、豊富の保育所もやっているんじゃないでしょうかね。

〔清水 児童家庭課長〕

豊富はやっていないんです。

〔知事〕

まだやってない。うまくないですね、それは。

〔参加者〕

だから玉穂とか、ほかの所に預けに行かなくちゃいけないんですよ。玉穂は玉穂のお母
さんたちが預けたがっているし、何とかしていただいて・・

〔司会〕

課長さん、何かお答えがありますでしょうか。

〔中央市：三井 子育て支援課長〕

豊富保育園と田富北保育園で、今やってはいないんですね。ほかではとりあえず0歳児
保育をしているんですが、今から0、1、2の要望も多くなってくると思いますので、今
後の検討課題ということで・・。

〔司会〕

それでは最後に知事から感想を含めまして・・

〔知事〕

色々貴重なお話をありがとうございましたですね。大変に勉強になりました。子育ての
話というのは県もですけども、地元の市町村が中心に、どちらかと言えばなるような分
野ですから、市町村のやり方によって、考え方によってずいぶんいろんなばらつきがあっ
てね、皆様方にも不満やご不信があるわけですけども、そういうところを県が何とかカ
バーをして、全体のサービス水準が上がるように努力をしなければならないというふう
に思っております。まあたくさん課題がありますけど、今また新しい県の子育ての計画を
作っている最中でして、皆さんのようなそういうご意見を、まあ全て反映というのは難し
いかもしれませんが、できるだけ計画に反映をして、そして本当に「子育てをするなら山
梨へ」と言ってもらえるような、そういう県にしていきたいというふうに思います。そん
なことでこれからもまた色々皆様方のご意見を聞かせていただきますようによろしく
お願いいたします。どうも今日はありがとうございました。

〔司会〕

それでは以上をもちまして『ひざづめ談議』を終了させていただきます。